

★メールマガジン「本はともだち～山口県子ども読書支援センターニュース」配信中！

メールマガジン「本はともだち」は、新刊紹介や県内の行事など、より充実した内容で配信中です。読者登録の方法は県立図書館のホームページをご覧ください。

【山口県子ども読書支援センター行事】

★「幼児のためのおはなし会」（毎月第一火曜日）

○日時：6月7日（火）11：00～11：20 ○会場：山口県立山口図書館 第2研修室 ○対象：幼児 ○定員：6組

《5月のおはなし会で使った本》

『まーだだよ』 間部香代/作 ひろかわさえこ/絵 鈴木出版 2019

『サンドイッチサンドイッチ』 小西英子/さく 福音館書店 2014

『おべんとうばこのうた』 さいとうしのぶ/構成・絵 チャイルド本社 2019

『いろいろめしあがれ』 マリマリマーチ/作・絵 教育画劇 2017

『くっついた』 三浦太郎/作・絵 こぐま社 2005

◎申込み・連絡先：山口県子ども読書支援センター

（電話：083-924-2111 FAX：083-932-2817 Eメール：a50401@pref.yamaguchi.lg.jp）

【お知らせ】

「第1回新刊児童書閲覧会」 展示資料のリストのアクセス先について

「令和4年度第1回「新刊児童書閲覧会」にて、展示した資料のリスト（PDFファイル 924KB）を作成しました。

https://library.pref.yamaguchi.lg.jp/contents/uploads/2022/05/R401_NCBlist.pdf

なお「第2回新刊児童書閲覧会」は、7月中旬の予定です。

【新刊紹介】価格は消費税抜き

<絵本-乳幼児から>

『おなまえおしえて』 新井洋行/作 偕成社 2022.3 ¥1200

パンダが「ぼくのなまえはパンダ。好きな食べ物は笹だよ。みんなの名前をききたいな。」と自己紹介。そして動物たちに「おなまえおしえてくーださい。」とマイクを向けると、「犬です。わんわんってなきます。」「きりんです。首が長いです。」「すかんです。おならがとつてもくさいです。」と、動物たちがそれぞれ答える。名前に興味をもつきっかけになる絵本。

<絵本-3, 4歳から>

『かたつむり』 キムミノ/さく わたなべなおこ/やく あすなろ書房 2022.3 ¥1400

ペダルのない幼児用の自転車に乗る少年。兄についていこうと必死で追いかけると速く走れない。おまけに、「遅いからついてくるな」と言われ、兄はどんどん先にいってしまう。一人ではよんぼり歩いていると、木をゆっくりのぼっていかたつむりをみつけて…。細かいタッチでシンプルな色づかみ。みんながそれぞれこの世界の主人公であることを教えてくれる、元気が出る絵本。

<絵本-5, 6歳から>

『たびするてんとうむし』 イザベル・シムレール/文・絵 石津ちひろ/訳 岩波書店 2022.2 ¥1800

葉っぱに産みつけられたてんとうむしの卵。卵がかえり成虫になったてんとうむしの旅が始まる。小枝のようなナナフシ、バラのとげのようなトゲツノゼミなど不思議な虫たちに出会いながら、てんとうむしはおあつらえむきの産卵場所を見つけることができるのか？昆虫の擬態が描かれ、見返しから隅々に至るまで、繊細で美しく見ごたえのある絵本。巻末には虫たちのミニ解説つき。

『サンサロようふく店』 アンゼソン/作・絵 林木林/訳 TOY Publishing 2022.4 ¥1500

誰もが民族服を着て暮らしていた頃のこと、町の三叉路に洋服店ができた。その名も「サンサロ洋服店」。あるじのドッグさん、サンドルさん、伝統を受け継ぎ新しいやり方を模索するドゥシクさん。親子三代で受け継がれ、紡がれていく丁寧で確かな技術と心のこもった仕事。2020年ボローニャ国際児童図書展オペラプリマ賞を受賞したノスタルジックな絵が魅力の韓国の絵本。

<絵本-小学校低学年から>

『スープとあめだま』 ブレイディみかこ/作 中田いくみ/絵 岩崎書店 2022.2 ¥1700

ある雪の日、ぼくは姉に誘われてボランティアについていくことに。着いた先はホームレスの人たちのためのシェルターである教会。雪の路上で毛布にくるまっている人たちをシェルターに促し、あたたかき紅茶を配るボランティアの人たち。ぼくも食事を待つ人たちにスープを配ることに。初めての経験がぼくの心を揺さぶる。死を考える絵本シリーズ「闇は光の母」の5作目。

<絵本-小学校中学年から>

『なきむしせいとく 沖繩戦にまきこまれた少年の物語』 たじまゆきひこ/作 童心社 2022.4 ¥1600

1945年の沖繩、いつも泣いているのでみんなから、なちぶー（なきむし）とよばれているせいとくは2年生。次第に戦禍が激しくなり、多くの人が傷つき倒れ、死んでいくなかで、なちぶーのせいとくは涙も出なくなり、死体が軀がっていても何も感じなくなっていく…。平和を願い、40年以上取材を続け沖繩を見つけてきた作者が、真正面から沖繩戦を描いた型絵染の絵本。

<読み物-小学校低学年から>

『かあさんうさぎと金のくつ』 デュボース・ヘイワード/作 マージョリー・フラック/絵 いしぞねりえ/訳 徳間書店 2022.3 ¥1700

毎年イースターの日に、きれいな色や模様をつけたたまごを運ぶイースターうさぎになれるのは、世界中から選り抜かれた5匹。かあさんうさぎになってもイースターうさぎになりたいフワフワは、長老が新たにうさぎを選ぶときいて21匹の子うさぎをつれてお城に見物に行き…。イースターうさぎの仕事が微笑ましい、アメリカで長い間読み継がれている楽しいイースターの物語。

<読み物—小学校中学年から>

『願いがかなう自動はんぱいき 算数すきすきメガネ』 山口オオ/作 たかいよしかず/絵 童心社 2022.3 ¥1000

金色にかがやき、賑やかな音楽を響かせながらロケットのようにとんでくる自動販売機。そこには、子どもの願いがかなうグッズが一つ500円でそろっている。ひとだまライトにスター★カチューシャ、算数すきすきメガネ。グッズをつかうと願いはかなう。でも使わなくなったときこそ、もっと大切なことに気づかせてくれる…。ふしぎな3つのグッズのお話。朝読書におすすめ。

<読み物—小学校高学年から>

『りんごの木を植えて』 大谷美和子/作 白石ゆか/絵 ポプラ社 2021.4 ¥1500

一緒に暮らすおじいちゃんが好きなきみずほ。6年生の夏、おじいちゃんのがんが再発した。治療をしてほしいみずほや家族と自由に過ごせる時間を大切にしたいおじいちゃん。「たとえあした、世界が滅亡しようとも、きょうわたしはりんごの木を植える」というおじいちゃんの言葉の意味とは。命をめぐる温かい家族の物語。第68回青少年読書感想文全国コンクール高学年課題図書。

<読み物—中学生から>

『夏の体温』 瀬尾まいこ/作 双葉社 2022.3 ¥1400

大学生作家の私が次回作のための取材で出会ったのは、同級生の倉橋ゆずる。「ストブラ」の人物、ということで彼を友人に紹介され、取材を始めた私。会うたびに小説の原案を創作するのだが、彼は期待していた人物像と少し違う。ある時、彼の高校時代の部活動での出来事を聞いて以降、創作できなくなり…。(『魅惑の極悪人ファイル』)人との出会いから始まる物語、全3作を収録。

『図書室のはこぶね』 名取佐和子/著 実業之日本社 2022.3 ¥1600

わたし、百瀬花音は高校3年生。脚を怪我したせいで部活の引退試合に出られず、高校最後の体育祭も見学決定。体育祭を週末に控え、周囲が準備に盛り上がる中、親友の代わりに図書当番として図書室へ。閉館作業中に、10年前に貸し出されたままのケストナー『飛ぶ教室』を見つけたことから、謎解きを始めることに。図書室を中心に、教職員まで巻き込んだ1週間の青春ドラマ。

<ノンフィクション—小学校低学年から>

『すきってどんなきもち? いやっていいのかな?』 田代美江子/監修 せべまさゆき/絵 WILL こども知育研究所/編著 金の星社 2022.3 ¥1300

すきってどんなきもち? 家族がすき、友達がすき、ピンクがすき。「いや」「だめ」「やめて」と言ってもいいんだよ。お互いの気持ちを伝え、分かり合うことが楽しいことを伝える。人間関係を学ぶことは性教育の基本。多様性を認めることで豊かな人間関係が構築される。幼い頃から身につけたい大切なことがやさしくわかる性の絵本。「やさしくわかる性のえほん」シリーズ。

<ノンフィクション—小学校中学年から>

『阿波根昌鴻(あはごんしょうこう)』 堀切リエ/文 ひろかわさえこ/画 あかね書房 2022.3 ¥1650

アジア・太平洋戦争後、米軍が軍用基地として使うために沖縄の土地をうばいにやってきた。「沖縄のガンディー」とよばれた昌鴻は、米軍に対し、助け合い譲り合い教えあうという人間らしい心と、農民としての誇りをもって非暴力で戦い続けた。日本ペンクラブ子どもの本委員でもある筆者が、彼をとりまく人びとを豊富な資料や写真も用いて紹介。「伝記を読もう」シリーズ。

『わたしもできる!世界とつながるSDGsアクション』 原琴乃/作 山田基靖/監修 汐文社 2022.2 ¥2200

外務省でのSDGs推進に関する企画・立案をきっかけにサステナビリティ分野の活動や発信に取り組む筆者が、世界の現状を写真などで紹介しながら具体的に組み立てる行動(アクション)について提案。1は、「もったいない」をキーワードに、様々な表やグラフから、海洋ゴミや省エネ、児童労働の問題に対して、子どもたちが身近にできる行動について紹介する。シリーズ全3巻。

<ノンフィクション—小学校高学年から>

『ボランティアたちの物語』 日本財団ボランティアセンター/監修 小峰書店 2022.3 ¥1800

東京2020オリンピック・パラリンピックは無観客の開催となったものの、16,000人の選手が来日。本書は選手と大会を支えたボランティア達の記録。スポーツドクターを目指す若き医師、東日本大震災の体験を伝える語り部、自らもいろいろなスポーツに取り組む車いすユーザー等、ボランティア活動を通して選手を支え、社会とつながり、自身の生き方の糧としていく奮闘記。

『捨てないパン屋の挑戦』 井出留美/著 あかね書房 2021.8 ¥1300

食品ロス削減推進法成立に協力し、世界13億トンの食品ロスの削減を目指す食品ロス問題の専門家である筆者が、あるパン職人の挑戦を紹介。捨てないパン屋をめざす田村さんは、様々な国や人に出会いながら「しあわせのレシピ」を完成させる。それは、まわりの人達をしあわせにしながら続いていく百年のパンのレシピ。第68回青少年読書感想文全国コンクール高学年課題図書。

<ノンフィクション—中学生から>

『嫌いな教科を好きになる方法、教えてください!』 河出書房新社/編 河出書房新社 2022.3 ¥1420

学校で習う教科で嫌いな教科は勉強することを楽しく感じられないし、学ぶ意義が見いだせない、という子どもたちへ向けた1冊。池上彰、森田正光といった専門家だけでなく、子どもたちに身近な芸人やYouTuberなど、様々な職種の大人が、中学校の各教科ごとに、子どもたちからの質問への回答という形で、学びの楽しさを語っている。「14歳の世渡り術」シリーズ。

<研究書>

『非認知能力をはぐくむ絵本ガイド180 0歳~小学生対象』 寺島知春/著 秀和システム 2022.3 ¥1600

絵本専門士でもある著者が、数多くの非認知能力の中から、忍耐力、自己抑制、目標への情熱、社交性、敬意、思いやり、自尊心といった9つを伸ばす観点から、著者自身の基準で設定した対象年齢ごとに選んだ絵本180冊をセレクト。また、「非認知能力」とは何か、非認知能力を育むために大人が気を付ける10項目の解説は、日常生活の様々な場面で活用できる内容あり。

『シリーズ学びの環境デザインを考える 第2巻 情報教育と学校図書館が結びつくために』 今井福司/編著 悠光堂 2022.3 ¥1800

現行の指導要領における話題といえば、一人一台端末の導入と併せ、小学校でのプログラミング教育と高校での情報教育。デジタル端末と紙媒体の資料とを併用できれば、子どもたちの学びの可能性が大きく広がる。本書は、アメリカの教育現場を参考に、日本での現状と課題を取り上げ、専門家の立場から今後に向けた学校図書館の活用と活性化のための提言集。

※【新刊紹介】の本は、県立図書館で現在受入準備中の本です。そのため、県立図書館の蔵書検索(OPAC)では検索できませんが、利用することは可能です。収書のための選書の参考として、閲覧、貸出等を希望される方は、お問い合わせください。山口県立山口図書館では、電子図書館サービスを提供しています。利用案内はこちらから→
<http://library.pref.yamaguchi.lg.jp/dlibrary>

